

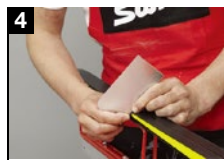
**1 スキーを固定する**  
 スキー・ビンディングに不備がないかチェックした後、スキーをしっかりとプロファイルにセットしてチューンナップテーブルに固定する。



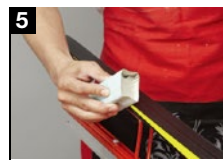
**2 フラットチェック**  
 スチールスクレーパーで、滑走面のフラットチェックを行う。フラットであれば③の行程へ。



**3 滑走面をフラットにする**  
 コルクなどにサンディングペーパーを巻き、サンディングしてフラットにする（# 100 → # 180 の順番で）。



**4 エッジの角を取る**  
 雪面に対する抵抗をなくして滑走性を向上させるため、エッジの角をスチールスクレーパー（T0080）を使用して、45～50度で削る（削り過ぎに注意）。※クラシカルスキーのキックゾーンの角は取らない。



**5 エッジをスムーズにする**  
 スチールスクレーパーで削ったエッジを、サンディングペーパーを使用してスムーズにする（# 180）。



**6 リフレッシュニング**  
 ストラクチャー内の細かいケバを取るために、ブロンズブラシでトップからテールに向かって丹念にブラッシングする。



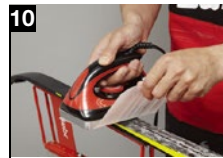
**7 ファイバーテックスで滑走面を整える**  
 ファイバーテックス T0265 → T0266 の順で滑走面を整える。



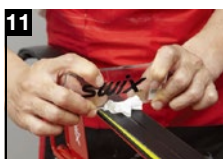
**8 フィニッシングパッド仕上げ**  
 微量のチリ、ブラッシング等で起きた静電気を取り除く。



**9 ホットワックスクリーニングⅠ**  
 ワックス（CH10X 又は CH8X）でクリーニングする。  
 ※クラシカルスキーのグリップゾーンにワックスは塗らない。



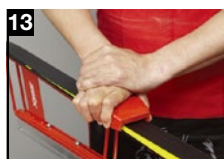
**10 ホットワックスクリーニングⅡ**  
 ファイバーレーンプロをアイロンに挟みワックスをのぼす。



**11 ホットワックスクリーニングⅢ**  
 約 1 分後にスクレーピング。



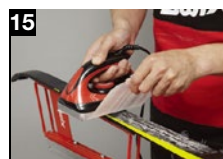
**12 ホットワックスクリーニングⅣ**  
 ブロンズブラシでブラッシング。



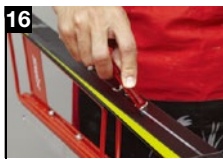
**13 ストラクチャーを入れる**  
 ストラクチャーツールでその時の条件に合ったストラクチャーを作る。



**14 ワックスをたらす**  
 ワックスパッケージのアイロン表示温度を目安にダイヤルをセットし、その時の条件にあったワックスを塗る。ワックスを軽くアイロンに押し当て、それを滑走面に擦り付ける。その上にワックスをたらす。



**15 ワックスをのぼす**  
 アイロンでワックスが液状になるまでのぼす。その際、アイロンを一か所に止めないこと。また、ファイバーレーンプロを挟むと、均一にのぼせ、不意な滑走面の焼け付けを防ぐことができる。



**16 余分なワックスを取る**  
 グループスクレーパーでグループ（滑走面のミソ）のワックスを乾かないうちに取り除く。サイドはスクレーパーで丁寧に取り除く。



**17 スクレーピング**  
 スキーを室温で冷やし（最低 30 分）、プレキシスクレーパーでスクレーピング。スクレーパーは角が丸まっていると効率良くスクレーピングができないので、スクレーパーシャープナーで目立てをする。



**18 ブラッシング**  
 ワックス粗削り、仕上げ用ブラシの順でブラッシングし、丹念にワックスを取り除く。



**19 ファイバーテックスで磨く**  
 ファイバーテックスポリッシュで滑走面を軽いタッチで磨く。



**20 ファイバーレーンで拭く**  
 ファイバーレーンでワックスの削りくずを取り除く。



**21 フィニッシングパッド仕上げ**  
 ブラッシング等で起きた静電気を取り除く。

